

岐阜空襲

終戦直後の昭和20年(1945)7月9日と12日の二度にわたる空襲により、岐阜の市街地は焼け野原になり、岐阜市は全戸数の51.7%が消失しました。被災者は全人口の43.9%にあたる8万6577人、死者863人、負傷者520人に達しました。市民は飢えと戦いながら絶望的な毎日を送っていましたが、終戦後は復興に向けてたくましく生活していきました。

1. 国民兵召集令状（複製）
2. ポスター「お国の為に金を政府に売りませう」（複製）
3. 丸物百貨店屋上より撮影した岐阜空襲焼け跡 昭和20年 岩田一郎氏
4. 岐阜空襲焼け跡 昭和20年 岩田一郎氏
5. 忠節堤防上で生活する焼け出された人々 昭和20年 岩田一郎氏
6. 岐阜空襲焼け跡・柳ヶ瀬 昭和20年10月15日 増田五郎氏



1. 国民兵召集令状（複製）



2. ポスター「お国の為に金を政府に売りませう」（複製）



3. 丸物百貨店屋上より撮影した岐阜空襲焼け跡



4. 岐阜空襲焼け跡



5. 忠節堤防上で生活する焼け出された人々



6. 岐阜空襲焼け跡・柳ヶ瀬